



文部科学省
平成26年度大学教育再生加速プログラム採択事業



平成26年度 大学教育再生加速プログラム テーマⅢ(入試改革) 採択事業

2016年度 アサーティブプログラム・アサーティブ入試 補助事業報告書



想像もなかった自分史がはじまる
おうてもん

追手門学院大学

「入試改革」の先へ

アサーティブプログラム・アサーティブ入試に取り組んで3年が経過しました。当初APの事業は5年間の予定でしたが、6年間に延長されましたので、ちょうど半分の期間が過ぎたこととなります。最初の計画になかった取り組みも含めて、内容的にも数字の上でも順調に進行しています。

2016年7月25日には、本学創立50周年企画の一環として、アサーティブシンポジウムを開催し、300名を超える大学教職員、高校教員、メディア関係者の方々に全国各地からご参加していただきました。基調講演は「高大接続システム改革最終報告の先にあるもの」と題して、日本学術振興会理事長の安西祐一郎氏にお願いしました。

パネルディスカッションのパネラーは、大学入試センター試験・研究統括官の大塚雄作氏、滋賀大学教育学部特任教授の河原恵氏、読売新聞東京本社専門委員の松本美奈氏、NPO法人NEWVERY理事・高大接続事業部ディレクターの倉部史記氏、本学アサーティブ課長の志村知美の各氏、指定討論者には高知県公立大学法人本部総務部長の福田直史氏、NPO法人NEWVERY理事長の山本繁氏の各氏にお願いしました。

基調講演、パネルディスカッションとも、それぞれの第一線で活躍する方々の具体的で率直なご意見が述べられ、本学の取り組みへの期待と今後の大学と高校の「連携」と「接続」の重要性が確認され大好評を博しました。このシンポジウムでは、アサーティブの取り組みに対する大きな期待をひしひしと感じ、改めて責任の重さを実感した次第です。

2016年度、アサーティブプログラムでの総面談者数は906名（前年比127.6%）、アサーティブ入試の志願者数は395名（前年比136.2%）、合格者数は190名（前年比146.2%）、入学者数は190名（前年比148.4%で入学者総数の10.1%）となり順調に推移しました。また、

アサーティブプログラムを受けて他の入試で入学した者とアサーティブ入試で入学した者を合わせると370名（前年比133.1%）が入学したことになり、入学者総数の19.8%になりました。目標としている、「アサーティブで3割の入学者」は現実のものになる可能性が高まってきたと考えています。

アサーティブで入学してきた1期生は、今年度は3年生になっています。この1期生たちが中心になって、昨年からは「アサーティブスタッフ」としてオープンキャンパスやアサーティブガイダンスのお手伝いを始めてきています。最初は受付と高校生の誘導などでしたが、今ではアサーティブガイダンスのプレゼンテーションまでやってくれるようになりました。彼らは、他にもボランティアやインターシップ、オープンキャンパススタッフなど自らの可能性を広げる取り組みにも旺盛に頑張っています。聞けば、2年生までの単位はキャップのほとんど上限まで修得し、GPAも3点台の学生がほとんどです。さらには、「もぐり」でいくつもの講義を聞きに行っているとのこと。私たちが強制・強要しているのではなく、すべて自発的にやっていることです。

今年の3月に、彼らを沖縄の名桜大学に連れていき、同大学のウェルナビ（入学してきたばかりの新生が大学生活をよりエンジョイできるように、サポートを行っている新生支援ボランティアサークル）の学生たちと交流する機会をつくりました。その結果、見事に「化学反応」し、彼らの一段と成長した姿を見ることができました。今年6月には本学と同大学の交流協定が締結されました。学生たちの交流もさらに活発になると思いますので、わくわくしています。

ベネッセ教育総合研究所との共同研究についても、2017年度中には成果を出さなくてはなりません。2年間にわたる調査と分析を行っていますが、本学のみならず

大学教育に一石を投ずる提起となるのではないかと考えています。

アサーティブプログラム・アサーティブ入試の名称で本学と同様の取り組みを開始する大学も出てきました。全部ではなくても、例えば、面談を取り入れたり、アサーティブノートを参考に独自のノートを開発したりという大学もあります。私たちの取り組みの広がりも実感できるようになりました。ただ、アサーティブプログラム・アサーティブ入試という名称は本学が商標登録しています。名称を独占するために登録したわけではなく、「入学しやすい入試」に落とさないようにするために、趣旨を理解していただいて実施していただくようにしたいと考えたからです。同じ名称を使用した取り組みをご希望の大学がございましたら、本学のアサーティブ課にご相談いただきたく存じます。

最後になりましたが、今後とも本取り組みへのご支援とご協力をお願いいたします。



追手門学院大学 学長代理・副学長
福島 一政

目次

副学長あいさつ	01
アサーティブプログラム・ アサーティブ入試の概要	03
統計・資料編	
(1)アサーティブガイダンス日程・ アサーティブプログラム受講者数	05
(2)MANABOSS(マナボス)登録・ 利用者数および利用状況	07
(3)MANABOSS(マナボス)問題数	08
(4)アサーティブ入試日程・募集人員	09
(5)アサーティブプログラム・アサーティブ入試について	10
(6)アサーティブ入試について	11
(7)アサーティブプログラム受講者 入試種別 志願・合格・入学者数	12
(8)入学前学習	13
(9)個別面談職員・研修日程	14
(10)研修内容・事例紹介	15
(11)報道関係	17
(12)講演依頼	19
(13)入学者インタビュー調査	20
(14)アサーティブシンポジウム開催報告	23
(15)アサーティブイベント「はじめての大学」開催報告	25
(16)アサーティブスタッフ活動報告	26
(17)平成29年度大学教育再生加速プログラム事業計画	29

アサーティブプログラム・アサーティブ入試の概要

高校生に大学で学ぶ目的を考えさせ、大学で学ぶ姿勢と意欲を持つことができるように育てるアサーティブプログラムと、そのことを検証するアサーティブ入試を開発した。アサーティブプログラムの特徴は、①本学職員と高校生が個別面談をし、将来の自分を意識させ、大学で何を学ぶかを問い、大学で学ぶ意味を自ら気づくように促す。②本学が独自に開発したMANABOSS（マナボス）システムで基礎学力の確認と向上、計画的学習を習慣づける。同時にこのシステム上で議論するバカロレアバトルで、物事を多様な観点から考察する能力を育成し、自分の意見を述べる力や他者の意見を受け入れる姿勢を養うことができるようにする。③個別面談で話した内容や、自分の気持ち・考えをアサーティブノートに記録し、繰り返し振り返ることで自己成長を促す。アサーティブ入試はその成果を発揮する場であり、意欲・能力・適性に加え、基礎学力の達成度を含めた多面的・総合的な評価が可能となる。

アサーティブ入試の求める受験生像

1. 追手門学院大学で学びたいという気持ちを描き、その思いを伝えられる人
2. 今は確かな希望や理念がなくとも、知的な事柄への興味や活動を通じ、何のために学ぶのかを問い続け、努力する人
3. 高校までの基礎的な知識や技能の習得を見直し、向上しようと努力する人

コンセプト

「選抜型」入試から「育成型」入試への転換

大学で学ぶ目的を考え、学ぶ意欲と姿勢を持った受験生に入学を許可することを目的とし、受験前から「学ぶことについて考える」及び「アイデンティティの形成」の機会となるアサーティブプログラムとその成果を発揮できるアサーティブ入試。

入学前学習

高校生活の充実と、大学で学ぶことを考え続けるプログラム（P13を参照）

事業による効果（期待する入学者像）

- シラバスの活用ができる
- 講義への参加意欲の向上
- 各種活動への積極的参加
などができる新入生の増加

アサーティブプログラム・アサーティブ入試の流れ



アサーティブプログラムの特徴

1 本学職員との「個別面談」

将来の自分を意識させ、大学で何を学ぶかを問い、大学で学ぶ意味を自ら気付くように促し、学ぶ意欲を引き出すことができるようにする。

2 独自開発システム「MANABOSS(マナボス)」

【MANABOSS導入の目的】

- ① 基礎学力の確認と弱点の発見から計画的学習への動機づけができる。
- ② 論理的思考や批判的思考を始めとして、物事を多様な観点から考察する能力を育成する。
- ③ ポートフォリオで成長の記録を振り返ることができ、入学後の学生ポートフォリオにつなげることができる。



基礎学力適正検査

高等学校段階の学力を客観的に把握・活用ができるように「言語能力問題」と「非言語能力問題」を準備。「達成度」から自らの基礎学力の状態を把握し、計画的に学ぶ姿勢を養うことができる。

追手門学院バカロレア

大学において、「答えが1つではない問題」を発見し、解決するために必要な専門的知識と汎用的能力を鍛えるための準備として、与えられた課題に対してじっくり考えることを養い、SNS上で議論を展開することができる。

3 自己成長を促す「アサーティブノート」

自らのことを理解し、大きな視野で周りの状況を見極め、自分で考えたことを、相手にしっかりと伝える準備ができるノートである。このことにより、アイデンティティの形成と自己成長を促すことになる。

アサーティブガイダンス日程・アサーティブプログラム受講者数

◆2014年度(2015年度入試対象)

(単位:名)

日程	イベント・場所	ガイダンス	個別面談	男	女	リピーター	個別面談 実人数
5月25日	オープンキャンパス	46	22	10	12	0	22
6月 8日	梅田サテライト	3	3	2	1	0	3
6月17日	梅田サテライト	2	2	1	1	0	2
6月22日	オープンキャンパス	64	41	17	24	3	38
6月29日	個別対応(広島)	3	3	3	0	1	2
7月13日	オープンキャンパス	48	34	14	20	6	28
7月20日	梅田サテライト	5	5	3	2	0	5
7月27日	梅田サテライト	6	6	2	4	0	6
8月 2日	オープンキャンパス	37	30	19	11	6	24
8月 3日	オープンキャンパス	30	27	16	11	7	20
8月 9日	梅田サテライト	7	7	7	0	0	7
8月21日	個別対応(本学)	1	1	1	0	0	1
8月24日	オープンキャンパス	25	23	12	11	6	17
8月25日	個別対応(本学)	2	2	2	0	0	2
9月14日	オープンキャンパス	15	9	8	1	2	7
9月15日	梅田サテライト	1	1	1	0	0	1
9月20日	梅田サテライト	1	1	1	0	0	1
9月21日	梅田サテライト	4	4	3	1	0	4
合計		300	221	122	99	31	190

◆2015年度(2016年度入試対象)

(単位:名)

日程	イベント・場所	ガイダンス	個別面談	男	女	リピーター	個別面談 実人数
2月22日	梅田サテライト	6	6	4	2	1*	6*
3月15日	梅田サテライト	9	9	5	4	0	9
3月28日	梅田サテライト	11	9	5	4	0	9
3月29日	梅田サテライト	7	4	1	3	1*	4*
3月31日	個別対応(本学)	1	1	0	1	0	1
4月26日	梅田サテライト	5	5	2	3	0	5
5月10日	梅田サテライト	3	3	2	1	1	2
5月24日	梅田サテライト	12	12	9	3	2	10
6月 7日	梅田サテライト	11	11	5	6	0	11
6月 9日	個別対応(高知)	1	1	0	1	0	1
6月21日	オープンキャンパス	124	102	54	48	11	91
7月 5日	梅田サテライト	9	9	8	1	2	7
7月19日	梅田サテライト	17	16	10	6	4	12
7月20日	個別対応(福岡)	1	1	0	1	0	1
7月21日	個別対応(大分・本学)	2	2	1	1	0	2
7月26日	オープンキャンパス	131	116	79	37	24	92
8月 2日	梅田サテライト	16	16	14	2	3	13
8月 4日	個別対応(本学)	1	1	1	0	0	1
8月 7日	オープンキャンパス	104	87	67	20	14	73
8月 8日	オープンキャンパス	85	77	55	22	20	57
8月23日	オープンキャンパス	103	86	63	23	26	60
8月24日	個別対応(本学)	1	1	0	1	0	1
8月26日	個別対応(本学)	1	1	0	1	0	1
9月 9日	個別対応(岡山)	1	1	1	0	0	1
9月13日	オープンキャンパス	50	52	39	13	14	38
9月27日	梅田サテライト	21	21	16	5	10	11
10月11日	梅田サテライト	12	12	9	3	2	10
10月25日	入試直前相談会	28	44	32	12	20	24
11月 2日	個別対応(本学)	2	2	2	0	0	2
11月 3日	個別対応(本学)	1	1	1	0	0	1
11月 4日	個別対応(本学)	1	1	1	0	0	1
合計		777	710	486	224	155	557

*リピーター155名中2名は、昨年度の受講者のため、実人数でもカウントしている。

◆2016年度(2017年度入試対象)

(単位:名)

日程	イベント・場所	ガイダンス	個別面談	男	女	リピーター	実人数 個別面談
12月23日	個別対応(本学)	1	1	1	0	1*	1*
2月28日	梅田サテライト	12	12	7	5	0	12
3月 6日	梅田サテライト	10	10	6	4	2*	10*
3月20日	梅田サテライト	15	15	6	9	0	15
3月28日	個別対応(本学)	0	1	1	0	1	0
5月 8日	梅田サテライト	27	25	19	6	4*	23*
5月22日	アサーティブイベント	41	30	17	13	8*	23*
6月 5日	梅田サテライト	11	10	8	2	1	9
6月19日	オープンキャンパス	168	138	87	51	9	129
7月 3日	梅田サテライト	19	23	12	11	0	23
7月14日	個別対応(本学)	1	1	1	0	0	1
7月17日	梅田サテライト	9	13	11	2	2	11
7月24日	オープンキャンパス	170	161	121	40	33*	129*
7月31日	梅田サテライト	24	23	16	7	2	21
8月 2日	大阪高校	18	18	13	5	3	15
8月 5日	オープンキャンパス	84	81	53	28	17	64
8月 6日	オープンキャンパス	78	75	50	25	10*	66*
8月21日	梅田サテライト	27	33	23	10	6	27
8月23日	個別対応(本学)	1	1	1	0	0	1
8月28日	オープンキャンパス	80	88	50	38	28	60
9月18日	オープンキャンパス	64	71	64	7	20	51
10月 2日	梅田サテライト	13	15	9	6	3	12
10月16日	入試直前相談会	44	46	30	16	8	38
10月30日	梅田サテライト	15	15	10	5	5	10
合計		932	906	616	290	163	751

*リピーター163名中8名は、昨年度の受講者のため、実人数でもカウントしている。

◆年度別参加者数とリピーター状況

(単位:名)

	ガイダンス 開催日程 (個別対応含む)	延人数		
		ガイダンス	個別面談	リピーター
2014年度	18回	300	221	31
2015年度	31回	777	710	155
2016年度	24回	932	906	163

	実人数(個別面談)					
	1年	2年	3年	合計	リピーター	リピーター率
2014年度	1	4	185	190	25	13.2%
2015年度	2	17	538	557	113	20.3%
2016年度	1	32	717	751	125	16.6%

MANABOSS (マナボス) 登録・利用者数および利用状況

◆MANABOSS登録者(全体)

(単位:名)

	2014年度				2015年度				2016年度			
	1年	2年	3年	高校教員	1年	2年	3年	高校教員	1年	2年	3年	高校教員
アサーティブプログラム受講者数	1	4	185	—	2	17	538	—	1	32	717	-
MANABOSS全登録者数	3	4	129	9	2	14	368	6	9	14	513	15
プログラム受講済の登録者数	1	2	112	—	1	10	347	—	1	11	467	-
プログラム未受講の登録者数	2	2	17	—	1	4	21	—	8	3	46	-

◆アサーティブ入試 志願者におけるMANABOSS利用者数

※ログイン履歴が1回以上の登録者を「利用者」としてカウント。
 ※2014年度(2015年度入試)はアサーティブ入試は1日程のみ実施。

(単位:名)

アサーティブ入試A日程	2014年度(2015年度入試)			2015年度(2016年度入試)			2016年度(2017年度入試)		
	対象者数	利用者数	利用率	対象者数	利用者数	利用率	対象者数	利用者数	利用率
志願者	91	77	84.6%	203	191	94.1%	261	233	89.3%
合格者	53	48	90.6%	89	87	97.8%	130	119	91.5%

アサーティブ入試B日程	2015年度(2016年度入試)			2016年度(2017年度入試)		
	対象者数	利用者数	利用率	対象者数	利用者数	利用率
志願者	87	79	90.8%	134	124	92.5%
合格者	41	38	92.7%	60	57	95.0%

◆アサーティブ入試 志願者におけるMANABOSS利用状況

※2014年度(2015年度入試)はアサーティブ入試は1日程のみ実施。

アサーティブ入試A日程	2014年度(2015年度入試) ※2014年4月1日~10月19日のデータ							2015年度(2016年度入試) ※2015年4月1日~9月19日のデータ							2016年度(2017年度入試) ※2016年4月1日~9月23日のデータ						
	対象者数	利用日数(日)			回答数			対象者数	利用日数(日)			回答数			対象者数	利用日数(日)			回答数		
		平均	最高	最低	平均	最高	最低		平均	最高	最低	平均	最高	最低		平均	最高	最低			
合格者	53	12	57	0	459	989	0	89	15	71	1	934	5387	10	130	13	43	1	808	6247	0
不合格者	32	11	49	0	307	880	0	106	13	59	1	648	4339	4	129	12	49	1	455	3829	4

アサーティブ入試B日程	2015年度(2016年度入試) ※2015年4月1日~11月28日のデータ							2016年度(2017年度入試) ※2016年4月1日~11月25日のデータ						
	対象者数	利用日数(日)			回答数			対象者数	利用日数(日)			回答数		
		平均	最高	最低	平均	最高	最低		平均	最高	最低	平均	最高	最低
合格者	41	24	80	1	1126	3378	1	60	15	52	1	718	2701	5
不合格者	40	16	67	1	1115	5034	22	69	14	69	1	789	6326	9

アサーティブ入試A日程 不合格者のうち、B日程に再受験した者のMANABOSS利用状況

合格者	15	28	80	1	1318	3406	454	19	19	52	1	977	2572	8
不合格者	11	27	67	1	1870	4917	60	18	18	69	1	1372	6326	91

◆アサーティブ入試B日程2次試験終了後の継続利用者数

※アサーティブ入試A・B日程志願者数の合計を対象者数としている。ただし2014年度はB日程は実施していないため1日程のみ。

2014年度(2015年度入試)						2015年度(2016年度入試)						2016年度(2017年度入試)					
対象者数	利用者数	利用日数平均	最高利用日数	回答数平均	最高回答数	対象者数	利用者数	利用日数平均	最高利用日数	回答数平均	最高回答数	対象者数	利用者数	利用日数平均	最高利用日数	回答数平均	最高回答数
89	1	1.5	2	161	161	290	8	1.5	3	12.9	105	395	8	0.8	2	33.3	90

MANABOSS(マナボス)問題数

◆言語能力問題

問題分野	2014年	2015年	2016年	合計
二語関係	66	31	2	99
同意語／同義語	45	23	33	101
反意語／反語	55	22	26	103
慣用句	63	16	19	98
ことわざ	3	16	53	72
語句の用法	45	22	36	103
熟語	49	21	24	94
言葉の意味	37	17	22	76
言葉の用法	50	28	20	98
敬語	40	21	33	94
文章整序	18	11	43	72
長文読解	34	15	21	70
漢字	0	77	8	85
合計	505	320	340	1165

◆非言語能力問題

問題分野	2014年	2015年	2016年	合計
推論	8	15	47	70
集合	9	32	29	70
表の読み取り	5	32	33	70
順列・組み合わせ	11	41	18	70
確率	8	42	20	70
代金の精算	3	40	27	70
料金の割引	5	40	36	81
分割払い	2	32	47	81
損益算	8	41	21	70
仕事算	13	33	26	72
速さ・時間・距離	13	51	13	77
グラフの領域	5	30	35	70
物の流れと比率	6	15	49	70
装置と回路	4	15	51	70
基礎数学	0	11	88	99
合計	100	470	540	1110

◆追手門学院バカロレア問題 ※全22問より抜粋

- あなたは今、この瞬間存在しますか。もし存在するとしたら、どのようにしてそれを証明しますか？
- 鏡の中に映るあなたの像は左右が逆になっています。宇宙船の中では左右が逆のままですが、宇宙では本来、左右と上下の区別は無いはずです。なぜ宇宙では上下逆でないのでしょうか？
- 「古池や、かわず飛び込むみずの音」という有名な俳句があります。この句を絶賛して下さい。そして次にこの句を酷評して下さい。
- アメリカからインドに送られた農業用の機械が多数、部品と知識の欠如から、打ち捨てられています。この種の無駄を避け、インドの農民の機械利用を助ける方法を考えてください。(出典：オペレーションズリサーチの数学的方法)
- とあるレストランに入り、あなたは前菜のスープとご飯と酢豚とデザートを注文しました。するとしばらくして、ご飯とデザートが出てきて、ご飯が冷めた頃スープが出てきて、その後しばらくして酢豚が出てきました。料理の味は最高なのに、料理の順番がめちゃくちゃで評判はあまりよくありません。店内を見てみるとウェ이터さん達は一生懸命働いているようです。もっとこのお店の評判を良くするには、どうしたらいいと思いますか？ あなたがもし店長さんだったら、どう分析し、改善しますか？
- 「正義」とはなにか。
- 人はなぜ働かなければならないのでしょうか？
- 「ダジャレ」の益と害について述べてください。
- 世の中やあなたの身の回りには無料の物やサービスが多くあります。出来るだけ多くの例を挙げて、それぞれが何故無料なのか説明してください。
- 雨の降っている日に歩いて濡れない方法をできるだけ多く挙げてください。

アサーティブ入試日程・募集人員

アサーティブプログラム・アサーティブ入試の趣旨に、入試前から育成という視点がある。プログラム設計当初からアサーティブ入試で一度不合格となった受験生が、自分の弱点を克服して再度チャレンジできる仕組みを計画してきた。2015年度入試では初年度ということもあり全1日程での実施であったが、2016年度入試以降は全2日程で実施している。

入学募集人員については、初年度の2015年度入試では60名、2016年度入試では111名、2017年度入試では216名、2018年度入試では216名（※2017年6月20日現在）としている。

アサーティブプログラム受講者は年々増加しており、他入試での出願も増えている（P.12参照）。よって最終的には、全体入学人員の3分の1となる500名程度がアサーティブプログラムを経て入学することを目標とする。

〔2015年度入試〕

- アサーティブ入試入学人員：60名
- アサーティブ入試A日程

出願期間：2014.8.20(水)～8.28(木)
 試験日：(1次試験)2014.9.7(日) グループディスカッション
 (2次試験)2014.10.19(日) 基礎学力適性検査、個別面接
 合格発表：(1次試験)2014.9.11(木)
 (2次試験)2014.10.24(金)
 入学手続：2014.11.12(水) 〆切

◆学部・学科別の募集人員

(単位:名)

学 部	学 科	募集人員
経 済	経 済	10
	経 営	5
経 営	マーケティング	5
	地域創造	10
社 会	社 会	10
心 理	心 理	10
国際教養	アジア	5
	英語コミュニケーション	5
合 計		60

〔2016年度入試〕

- アサーティブ入学人員：111名
- アサーティブ入試A日程

出願期間：2015.8.20(木)～8.28(金)
 試験日：(1次試験)2015.9.5(土) グループディスカッション
 (2次試験)2015.9.19(土) 基礎学力適性検査、個別面接
 合格発表：(1次試験)2015.9.10(木)
 (2次試験)2015.9.25(金)
 入学手続：2015.10.23(金) 〆切

- アサーティブ入試B日程

出願期間：2015.10.28(水)～11.6(金)
 試験日：(1次試験)2015.11.14(土) グループディスカッション
 (2次試験)2015.11.28(土) 基礎学力適性検査、個別面接
 合格発表：(1次試験)2015.11.20(金)
 (2次試験)2015.12.4(金)
 入学手続：2015.12.21(月) 〆切

◆学部・学科別の募集人員

(単位:名)

学 部	学 科	募集人員
経 済	経 済	15
	経 営	15
経 営	マーケティング	15
	地域創造	11
社 会	社 会	22
心 理	心 理	15
国際教養	アジア	8
	英語コミュニケーション*	10
合 計		111

※国際教養学部英語コミュニケーション学科は、2016年4月より国際教養学部国際教養学科に名称変更。

〔2017年度入試〕

- アサーティブ入学人員：216名
- アサーティブ入試A日程

出願期間：2016.8.19(金)～8.29(月)
 試験日：(1次試験)2016.9.10(土) グループディスカッション、基礎学力適性検査
 (2次試験)2016.9.24(土) 個別面接
 合格発表：(1次試験)2016.9.13(火)
 (2次試験)2016.9.30(金)
 入学手続：2016.10.28(金) 〆切

- アサーティブ入試B日程

出願期間：2016.10.26(水)～11.2(水)
 試験日：(1次試験)2016.11.13(日) グループディスカッション、基礎学力適性検査
 (2次試験)2016.11.26(土) 個別面接
 合格発表：(1次試験)2016.11.18(金)
 (2次試験)2016.12.2(金)
 入学手続：2016.12.22(木) 〆切

◆学部・学科別の募集人員

(単位:名)

学 部	学 科	募集人員
経 済	経 済	48
	経 営	29
経 営	マーケティング	29
	地域創造	20
社 会	社 会	30
心 理	心 理	29
国際教養	アジア*	14
	国際教養	17
合 計		216

※国際教養学部アジア学科は、2017年4月より国際教養学部国際日本学科に名称変更。

〔2018年度入試〕

- アサーティブ入学人員：216名
- アサーティブ入試A日程

出願期間：2017.8.19(土)～8.28(月)
 試験日：(1次試験)2017.9.9(土) グループディスカッション、基礎学力適性検査
 (2次試験)2017.9.23(土) 個別面接
 合格発表：(1次試験)2017.9.12(火)
 (2次試験)2017.9.29(金)
 入学手続：2017.10.20(金) 〆切

- アサーティブ入試B日程

出願期間：2017.10.23(月)～10.31(火)
 試験日：(1次試験)2017.11.16(木) グループディスカッション、基礎学力適性検査
 (2次試験)2017.11.26(日) 個別面接
 合格発表：(1次試験)2017.11.20(月)
 (2次試験)2016.12.1(金)
 入学手続：2017.12.20(水) 〆切

◆学部・学科別の募集人員

(単位:名)

学 部	学 科	募集人員
経 済	経 済	48
	経 営	29
経 営	マーケティング	29
	地域創造	20
社 会	社 会	30
心 理	心 理	29
国際教養	国際教養	17*
	国際日本	14*
合 計		216

※文部科学省へ入学定員増加の認可申請を行っています。増員が認可された場合は、改めて入学定員および募集人員の変更(増員)について、本学ホームページ(<http://www.otemon.ac.jp>)で公表します。

アサーティブプログラム・アサーティブ入試について

出身校都道府県別 人数一覧

(単位:名)

都道府県	2015年度			2016年度			2017年度		
	プロ グラム	アサーティブ入試		プロ グラム	アサーティブ入試		プロ グラム	アサーティブ入試	
		志願者	合格者		志願者 (A,B日程)	合格者 (A,B日程)		志願者 (A,B日程)	合格者 (A,B日程)
	1年生~ 3年生	3年生 のみ	3年生 のみ	1年生~ 3年生	3年生 のみ	3年生 のみ	1年生~ 3年生	3年生 のみ	3年生 のみ
北海道	1	0	0	0	0	0	0	0	0
青森県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
岩手県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
宮城県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
秋田県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山形県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福島県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
茨城県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
栃木県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
群馬県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
埼玉県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
千葉県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東京都	0	0	0	3	2	2	0	0	0
神奈川県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新潟県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山梨県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長野県	1	0	0	0	0	0	0	0	0
富山県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
石川県	2	0	0	0	0	0	1	1	0
福井県	2	0	0	1	1	0	2	1	1
岐阜県	0	0	0	1	0	0	2	2	2
静岡県	1	1	0	2	1	1	3	3	2
愛知県	1	0	0	2	1	0	2	1	1
三重県	2	2	1	9	4	2	4	1	1
滋賀県	12	3	1	26	19	9	26	16	8
京都府	18	8	6	36	22	12	57	26	13
大阪府	98	51	29	325	142	65	481	222	129
兵庫県	28	12	8	84	35	23	88	50	21
奈良県	3	1	1	10	3	1	9	4	1

(単位:名)

都道府県	2015年度			2016年度			2017年度		
	プロ グラム	アサーティブ入試		プロ グラム	アサーティブ入試		プロ グラム	アサーティブ入試	
		志願者	合格者		志願者 (A,B日程)	合格者 (A,B日程)		志願者 (A,B日程)	合格者 (A,B日程)
	1年生~ 3年生	3年生 のみ	3年生 のみ	1年生~ 3年生	3年生 のみ	3年生 のみ	1年生~ 3年生	3年生 のみ	3年生 のみ
和歌山県	1	0	0	6	2	0	9	3	1
鳥取県	1	1	0	3	2	1	1	0	0
島根県	0	0	0	3	1	1	0	0	0
岡山県	1	1	1	5	4	2	7	3	1
広島県	4	2	2	6	5	4	1	0	0
山口県	0	0	0	2	2	1	0	0	0
徳島県	0	0	0	0	0	0	2	2	1
香川県	2	2	1	2	1	1	3	1	1
愛媛県	0	0	0	2	0	0	2	1	1
高知県	1	1	1	1	1	0	4	0	0
福岡県	0	0	0	2	0	0	3	1	1
佐賀県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長崎県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
熊本県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大分県	0	0	0	1	1	0	0	0	0
宮崎県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鹿児島県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
沖縄県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
通信制	11	6	2	22	12	5	42	20	5
ハワイ	0	0	0	0	0	0	1	0	0
在外教育施設	0	0	0	1	1	0	0	0	0
高卒認定	0	0	0	2	0	0	0	0	0
高校中退	0	0	0	0	0	0	1	0	0
合計 (実人数)	190	91	53	557	262	130	751	358	190

アサーティブ入試について

学部学科別 志願・合格・入学者数

(単位:名)

学部/学科	2015年度			2016年度						2017年度							
	男	女	合計	A日程			B日程			合計	A日程			B日程			合計
				男	女	合計	男	女	合計		男	女	合計	男	女	合計	
1次志願者数																	
経済	0	0	0	27	0	27	6	0	6	33	31	2	33	23	2	25	58
経営	6	2	8	34	4	38	22	1	23	61	16	4	20	11	4	15	35
マーケティング	9	7	16	23	9	32	13	7	20	52	29	20	49	12	3	15	64
地域創造	10	1	11	14	5	19	7	1	8	27	11	2	13	6	1	7	20
社会	1	4	5	12	10	22	6	4	10	32	39	7	46	20	5	25	71
心理	24	21	45	20	27	47	3	12	15	62	38	33	71	20	14	34	105
国際教養*	1	3	4	5	6	11	4	0	4	15	10	5	15	5	3	8	23
国際日本*	1	1	2	2	5	7	1	0	1	8	2	12	14	1	4	5	19
合計	52	39	91	137	66	203	62	25	87	290	176	85	261	98	36	134	395

学部/学科	2015年度			2016年度						2017年度							
	男	女	合計	A日程			B日程			合計	A日程			B日程			合計
				男	女	合計	男	女	合計		男	女	合計	男	女	合計	
1次合格者数																	
経済	0	0	0	25	0	25	5	0	5	30	22	0	22	15	2	17	39
経営	4	2	6	31	4	35	19	1	20	55	9	3	12	5	1	6	18
マーケティング	9	7	16	20	8	28	10	6	16	44	13	12	25	5	0	5	30
地域創造	10	1	11	13	4	17	5	1	6	23	8	1	9	5	1	6	15
社会	1	3	4	11	10	21	4	4	8	29	24	6	30	7	3	10	40
心理	19	19	38	20	26	46	2	11	13	59	14	14	28	6	8	14	42
国際教養*	1	2	3	3	6	9	3	0	3	12	6	3	9	5	2	7	16
国際日本*	1	1	2	2	5	7	1	0	1	8	2	7	9	1	3	4	13
合計	45	35	80	125	63	188	49	23	72	260	98	46	144	49	20	69	213

学部/学科	2015年度			2016年度						2017年度							
	男	女	合計	A日程			B日程			合計	A日程			B日程			合計
				男	女	合計	男	女	合計		男	女	合計	男	女	合計	
2次合格者数																	
経済	0	0	0	12	0	12	2	0	2	14	19	0	19	14	2	16	35
経営	4	2	6	13	2	15	10	0	10	25	9	3	12	5	1	6	18
マーケティング	5	5	10	8	5	13	6	4	10	23	12	12	24	4	0	4	28
地域創造	9	1	10	4	3	7	5	0	5	12	7	1	8	3	0	3	11
社会	1	2	3	9	9	18	3	3	6	24	22	5	27	5	2	7	34
心理	9	10	19	6	8	14	0	5	5	19	10	13	23	6	8	14	37
国際教養*	1	2	3	1	4	5	2	0	2	7	5	3	8	5	1	6	14
国際日本*	1	1	2	1	4	5	1	0	1	6	2	7	9	1	3	4	13
合計	30	23	53	54	35	89	29	12	41	130	86	44	130	43	17	60	190
入学者	30	22	52	52	35	87	29	12	41	128	86	44	130	43	17	60	190

*国際教養学科は、2015年度までは英語コミュニケーション学科。

*国際日本学科は、2016年度まではアジア学科。

アサーティブプログラム受講者 入試種別 志願・合格・入学者数

(単位:名)

入試種別	2015年度			2016年度			2017年度		
	志願者数 <small>※複数出願あり</small>	合格者数 <small>※複数合格あり</small>	入学者	志願者数 <small>※複数出願あり</small>	合格者数 <small>※複数合格あり</small>	入学者	志願者数 <small>※複数出願あり</small>	合格者数 <small>※複数合格あり</small>	入学者
アサーティブ入試 A日程	91	53	52	203	89	87	261	130	130
アサーティブ入試 B日程	-	-	-	87	41	41	134	60	60
AO入試	32	17	17	-	-	-	-	-	-
スポーツ推薦入試 (第1期)	1	1	1	3	3	3	4	4	4
スポーツ推薦入試 (第2期)	-	-	-	0	0	0	0	0	0
特別選抜入試	-	-	-	18	12	12	22	18	18
追手門ファミリー入試	-	-	-	4	2	2	3	3	3
提携推薦入試	-	-	-	47	47	47	41	41	41
内部推薦入試	0	0	0	1	1	1	0	0	0
指定校推薦入試	12	12	12	48	48	48	61	61	61
公募制推薦入試 A日程	28	8	5	92	22	16	122	45	35
公募制推薦入試 B日程	10	2	2	36	6	5	56	11	10
小論文入試 A日程	12	5	5	31	8	6	21	9	1
小論文入試 B日程	1	0	0	3	1	1	-	-	-
一般入試 A日程	11	5	5	38	7	5	59	5	4
一般入試 S日程 前期	10	0	0	25	4	3	37	0	0
一般入試 S日程 後期	2	0	0	-	-	-	-	-	-
一般入試 B日程	3	1	1	18	1	1	24	1	1
大学入試センター試験利用入試 A日程	0	0	0	8	0	0	9	1	1
大学入試センター試験利用入試 B日程	0	0	0	0	0	0	3	0	0
チャレンジ入試	2	0	0	5	0	0	12	1	1
合計	215	104	100	667	292	278	869	390	370

■2015年度	■2016年度	■2017年度
【アサーティブプログラム受講者数】 221名(延べ数) 190名(実人数) (うち3年:185名 2年:4名 1年:1名)	【アサーティブプログラム受講者数】 710名(延べ数) 557名(実人数) (うち3年:538名 2年:17名 1年:2名)	【アサーティブプログラム受講者数】 906名(延べ数) 751名(実人数) (うち3年:717名 2年:32名 1年:1名) ※高校中退1名
【全入試出願者数】 受験対象者 185名(実人数) 出願者数 139名(実人数) 合格者数 103名(実人数) 入学者数 100名(実人数)	【全入試出願者数】 受験対象者 538名(実人数) 出願者数 409名(実人数) 合格者数 287名(実人数) 入学者数 278名(実人数)	【全入試出願者数】 受験対象者 717名(実人数) 出願者数 534名(実人数) 合格者数 378名(実人数) 入学者数 370名(実人数)
個別面談からの出願率 75.1% 出願からの合格率 74.1% 合格からの入学率 97%	個別面談からの出願率 76% 出願からの合格率 70.2% 合格からの入学率 96.9%	個別面談からの出願率 74.5% 出願からの合格率 70.8% 合格からの入学率 97.9%
アサーティブ入試 入学者:52名 (1名辞退※経済的理由)	アサーティブ入試 入学者:128名 (2名入学辞退 ※経済的理由、他大学へ進学) アサーティブ入試A日程不合格からの アサーティブ入試B日程出願:28名(合格:15名)	アサーティブ入試 入学者:190名 アサーティブ入試A日程不合格からの アサーティブ入試B日程出願:37名(合格:19名)

入学前学習

1. 時期 2016年12月15日(木) 発送
2017年 2月 6日(月) 提出締め切り

2. 課題
- ① あなたの生まれた日の新聞を読んでください。
※<お誕生日>という大切な日に発行された読売新聞紙面で作製した「記念日の新聞」のコピーを合格者に提供。
 - ② 毎年年末になると報道関係から発表される「10大ニュース」を調べてみましょう。
※生まれた年から高校2年生までの17年分です。
 - ③ 毎年の10大ニュースから、自分の興味を持ったニュースをそれぞれ3つ選びます。ワークシート「私の選んだ毎年のニュース」に、生まれた年から記入をします。
 - ④ 今まであなたが成長してきた過程と、毎年のニュースを対比してください。そこから考えたことを踏まえ、これからの大学生活や将来に向けての思いを800字以内でまとめてください。

3. 目的 合格者に大学入学までの高校生活の充実と、
大学で学ぶことを考え続けることができる課題を用意する。
人の行動や考えは、社会の動きから様々な影響を受けていることを実感してもらうために、
毎年末に新聞等で発表される10大ニュースを生まれてから入学までの毎年分を調べ、
社会の動向と自分の人生と照らし合わせ、
改めて大学進学の意味や学ぶ学科での学び方を意識化することを目的とする。

学生コメント

- 普段あまりニュースを見ないので、ニュースを見るきっかけになった。
また、新聞やニュースを見る習慣も身に付いた。
- 毎年たくさんの事件や出来事が起こっていることを知り、新しい気付きも多かった。
ので、その気付きを元に大学入学後の勉強にも繋げていきたいと思った。
- 海外ではテロなど悲惨な事件が多いという新たな発見ができた。
量が多く大変だったが、新しい発見があったので楽しく取り組めた。
- 生まれて間もない頃のニュースは知らないことが多かった。
ので、親に質問することが多く、親と会話するきっかけにもなった。
- 自分で1つずつ調べていくスタイルの課題だったので、
とてもやりがいがあり、大学での学びを先取りしていると実感できた。

個別面談職員・研修日程

◆アサーティブ面談職員数

2014年度:32名
 2015年度:新たに22名 合計54名
 2016年度:新たに10名 合計61名
 2017年度:新たに 2名 合計60名 (※退職者等は除いている)

(単位:名)

部署名	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
副学長	1	1	1	1
内部監査室	1	2	1	1
理事長室 学長室	1	1	7	6
経営戦略課		2		
総務課	3	2	4	4
人事課	2	3	3	4
財務課	1	2	2	2
学事課	1	4		
広報課		1	2	2
評価推進課				
学部設置課		1		
一貫連携教育部			2	1
教務課	8	8	9	7
教育支援課	2	2		
教育企画課			1	1
学生課	1	3	4	5
教職支援センター			1	1
課外活動推進課	2			
就職・キャリア支援課	1	2	4	6
国際交流教育センター	1	2	3	2
情報メディア課		3	2	2
株式会社オーティーエム	1	2		
入試課	6	10	8	7
アサーティブ課			3	4
中・高等学校			1	2
大手前中・高等学校		1	1	1
初等中等室		1	1	1
合計	32	53	61	60

※所属は各年度初め時点とする。

◆研修日程

2014年度

- ①2014年3月28日
- ②2014年4月22日
- ③2015年2月25日
- ④2015年3月24日

※③、④は同内容

2015年度

- ①2015年12月8日
- ②2015年12月9日
- ③2015年12月11日

※①、②、③は同内容

2016年度

- ①2016年12月6日
- ②2016年12月7日
- ③2016年12月8日

※①、②、③は同内容

研修内容・事例紹介

◆目的

面談職員がそれぞれの面談事例を共有しながら議論をすることにより、多様な高校生の実態とその対応についてお互いに学び合うとともに、今後の対応に活かすため事例を蓄積する。また、アサーティブプログラムで必要不可欠となる「職員の面談力」をテーマに議論することにより、追手門学院大学職員面談力の定義を構築することが目的である。

◆内容

1. ケースカンファレンス及びグループディスカッション

各自、担当した生徒のコンタクトシートを確認しながら、特に印象に残っている事例をワークシートに記入。その後、それぞれの事例を基にグループ内で議論をし、グループごとに発表。

	どういった生徒だったか	どのように対応したか	生徒の反応はどうだったか	振り返り
1	成績優秀だったが、高校で挫折し、自己否定感が強い	生徒の話に傾聴し、関心の持てる分野があることが分かった	自分が関心を持てる分野で心機一転やり直してみたいとの意識を示した	話を傾聴することと、関心のあることに的を絞って話を進めたことが良かった
2	モチベーションや向上心が高い。リーダー的な立場に立って仕事がしたい	リーダーというポジションの責任の重さ、それを上回る思い入れや志が必要であると伝えた	今まで考えたことのない視点の気づきがあったという印象	自分の経験談が、高校生にどこまで実感として伝わったのかは不安が残る
3	高校では何も活動せず、大学での志望もはっきりしていない	「ものさし」を持ち、なりたい自分、やりたいことを考えてほしいと伝えた	素直になついていたが、面談を受けると出願資格が得られるという気持ちが伝わってきた	「アサーティブ入試＝楽な入試」というイメージを持ち受験する生徒の典型
4	アジア学科に関心がある。ダブルダッチをやっている面からも本学に興味がある。親や先生からはレベルの高い大学を目指すように進められている	追手門でどんなことを学びたいかはっきりさせて、自分の気持ちを伝えるようにアドバイス	「なぜ追手門か」がはっきりしていなかったが、自分の進路について真剣に向き合う姿勢は感じられた	結果アジア学科(国際日本学科)に合格しており、自分の考えをしっかりとめられたのではないかと
5	面談を3回受け、アサーティブA日程は不合格だったが見事B日程で合格。経験を力に変えることができる	A日程のどこに問題があったか考えさせた。グループディスカッションでは、自分の個性を活かすようにアドバイス	学費を自分で払うつもりであり、進学動機も面談を経ることにしっかりしてきた	学力対策をさせたことで合格に結びついたものだと思う
6	オープンキャンパスに3回来ているが、主体性や自分の主張がうまくできず、友人と来学	自分のことは自分で、また、学びたい分野の理由を考え、自分でストーリーを作れるようにアドバイス	絞り込んで考えてみるきっかけとなったような反応であった	本人の意識が薄い中で、方向性から考え、人に話せるようにすることの大切さを感じさせることが重要
7	高校まででやってきた事、大学に入ってからやりたい事が明確	夢を叶えられる場が本当に追大なのか、ミスマッチがないか確認できるような会話を意識して対応	志望理由がより明確になっていった	ある程度自己分析できている生徒に対し、より深く考えさせる質問を投げかける必要がある
8	自らの意思を持たず漠然と大学進学を考えている。将来の夢を見つけれない自分に不安が募っている	何が好きか、興味があるのか、何になりたいかなどを掘り下げるように質問した	具体的な回答はせず、涙を流して泣いていた。おそらく不安感が大きかったのではないかと	とりあえず大学進学、という目的の生徒が多い。「4年間を日々過ごす」というイメージが抜け落ちているような印象
9	大学に行く理由は特になく、バンド活動がしたい	話を全て聞いた上で、「それでいいのか?」と再度問いかけた	「本気で考えたことがなかった、本気で何をしたいか考えます」と語っていた。	「なぜ?」という意味や目的を問ひかけ、繰り返し考えてもらえるような雰囲気や環境作りが重要
10	夢は世界で活躍できるミュージシャン。ただし学部選びは漠然としている	学問を深く掘り下げることで、夢と現実のギャップを埋めて、地に足をつけるようにアドバイス	前向きな姿勢であった	夢と大学の学びは必ずしも結びつかないが、だからこそ進学する意義について一緒に考えていく必要性を感じられた
11	出張授業で本学の地域創造学部に興味を持った	学部の学びについて説明。また、高校生活や興味のある部活の話などを行いコミュニケーションを取った	コミュニケーションを取るのが苦手なタイプだったが、好きな分野になると積極的に話をしてくれた	本音をどれだけ聞きだせるか、先輩として思いを押し付けるのではなく、アドバイザーとなってあげることが第一歩になる
12	なんとなく教員になりたい。経営学部が志望学部で社会学部にも興味がある	何を学びたいのか考える時間を持ち、身近な大人と話すことを勧めた。また、これまでの人生で印象に残ったことを思い出せるようアドバイスした	納得はしていたが、何から手をつけたいかわからない様子	やるべき事をあげたが混乱し、「○○だけやればいいですか?」というように単純化しただったので、考えさせるクセをつけさせるにはどうしたらいいか
13	親が大学進学を勧めず、学費を自分で準備。学校も特に勧めておらず、自分の意志で進学を決めている	大学の情報を得る方法について考えていった。大学受験に必要な事を挙げていくように話した	自分の意志をしっかり持っており、不足している情報について整理している様子だった	アサーティブA日程は不合格だがB日程で合格。自分で必要な事を考えて実現できている様子
14	目標や目的がなく、入試の面接でどう答えたらいいのかわからないと、入試対策の相談を受けた	今の時点で目標や目的が明確でないことを不安に思う必要はない。大学で何をやるのか、どうやって夢を探すのかを考えて話したらどうかとアドバイス	「考えてみます」とちょっと安心した感じであった	もっと踏み込んで、答えは出なくてもヒントを見つけたせるまで議論すればよかった
15	将来の夢は明確に決まっているが、なぜなのかわからない	「なぜ」を繰り返して、理由を聞く姿勢を続けた。例えばの話もした	答えられない事が多い。例えば話をそのまま志望理由にするといった生徒もいた	深く考えて結論を出すという過程を飛ばす生徒が多い

2. 「面談力とは何か」について議論

「面談力とは何か」と「これからアサーティブ面談職員に必要なものは」についてグループ内で議論。

	面談力とは何か？	これからアサーティブ面談職員に必要なものは？
1	傾聴力、共感できる力、ソクラテスの「産婆法(術)」のように、「なぜ?」と問いかけ自ら答えを出せるように導く力。相手がアドバイスを求めるタイミングで、いくつかの選択肢を提示できる力、どのような話題にでも対応できる「引き出し」の多さ	様々な個性を受け止める許容力、傾聴力、様々な話題に対応できる「引き出し」を増やすこと 入試:アクティブラーニングの評価基準について学ぶこと
2	・高校生に興味を持つこと(面談の対象者について) ・こちらの趣旨を伝えつつ、相手に求められることを理解してもらうこと	・合格後もその学生と向き合う責任感 ・1回目の面談の重要性
3	聴く力、読む力(表情)、添う力(信頼関係を作る)、待つこと	多様な学習観や学習動機を持った学生を受け入れるようになったので、その多様性に応えるために面談職員の引き出しを増やす
4	・「気付き」を与えられる ・頭を使って考えさせる ・思い込み、先入観を捨てさせる	聞くだけでなく、考えさせる問いかけをすること
5	・相手を引き出す力 ・相手の考えを固めていくお手伝い ・こちらから押し付けることはしない ・相手の引き出しを広く、たくさん見つけるお手伝い ・相手が話しやすいように(肯定が基本)	・自分の引き出しをたくさん持つこと ・相手の意見を引き出す力→粘り強さ
6	目標達成のサポートができる力。傾聴し、信頼関係を構築する力。やりたいこと、目標について一緒に考えていく姿勢	・前向きな姿勢を引き出す力 ・入学後のイメージを明確にしてもらうために本学の魅力を知る
7	面談の対象者である生徒が抱えている不安・疑問を一緒に見つけ出し、整理する力。そして、1歩踏み出す勇氣と具体的な道筋を少しだけ示す力	生徒に寄り添う気持ち。親でも先生でも友達でもないポジションだから話せることがあるはずで、職員はもたずすに受け止める。一方で、決めるのは生徒自身であることを自覚させる。自分でしか決められないということ伝える「厳しさ」
8	本人が気付いていないことを気付かせることができる。年代、経験、大学というツールを使いこなして、本人が今から何を意識すればよいか?等の動機付けができる力	本人に気付かせられるように、カウンセリングのような形で導けるようになる必要がある
9	高校生の内側にある考えや思いを引き出すことのできる力	面談を受けて良かった、具体的にこう役に立った、と思ってもらえるよう、本人ですら気付いていなかった自分の持ち味を発揮できるように誘い、自分の立ち位置を気付かせてあげること
10	面談者が自分の思い、考えを率直に引き出せるよう、聞き上手、同調姿勢を持つ	意見を尊重する姿勢と、その状況に応じた的確なアドバイス。時には優しく、時には厳しくをモットーに、暖かい姿勢で学生を包んであげられる能力
11	聞き上手になってあげること。相手の思いを100%言葉にしてあげる環境(雰囲気)をどれだけ作ってあげられるか。自分の高校生の時の例を挙げると伝わりやすい。視野を広げてあげると違う世界が見えてくる	高校生と同じ目線でコミュニケーションを取ること。小さい話からでも大きく広げてあげて、言葉が出やすい質問の投げかけや、きっかけを作ってあげる
12	気付き・考えるキッカケを与える。少しでも成長して帰ってもらう	同じ目線に立って話をするため、高校生の生態と実態への理解
13	高校生に話をさせる力。糸口を見つける力	高校生がこれまでになかったと思うくらいに考えるきっかけを作る。なんとなく過ぎてきたことを気付かせる
14	気付いてもらう。話を引き出す。考えてもらう。吐き出してもらう。コミュニケーション力。傾聴力	キャリアマップ。手間を惜しまず、相手に寄り添う。対応力
15	高校生に考える動機付けを与えることができる。緊張を解きほぐし、リラックスした雰囲気の中で話をさせる。明確な答えが出なくても、何かヒントになるようなものを見つけてあげることができる	ありとあらゆるアンテナを張りめぐらし、生徒の様子、反応に目を配りながら、話を引き出す努力をする
16	多様な高校生に対して相手の立ち位置を理解して、同じ目線に立って考えられること(共感)。ただし、話す時には相手の良さを引き出せるよう自身の経験、スキルを活かして質問できる力	情報力。広い視野・知見。相手を本気で思いやる気持ち。今の高校の状況。何を話してもいいんだという安心感
17	傾聴。一生懸命こちらを話している、という姿勢は伝わる。伝わることで、相手も話してみようかなという雰囲気になると感じている	宿題や考えた成果を持って帰ってもらえるような面談ができる。ただ面談をしただけで帰らせないようにすることが大事
18	現在の想いや考えを引き出し、話をさせる力。質問や肯定により、生徒に新しい考え方や選択肢を気付かせる力	聞く力。アドバイスカ。サービス精神。追跡する
19	高校生に話をさせること。正しい・正しくないの判断はしない。答えを示さない。高校生にいかにか考えさせられるか。「なぜ」を3回は使う	・話せない高校生にどうやって話させるのか。何を話しても大丈夫という安心感・信頼を持ってもらえるようにすること ・少ないキーワードから展開する力
20	聞くこと(傾聴)。知識。問いかけ・投げかけ。視点(入学ではなく将来)。人間力を豊かにする	知識・経験を積む。コミュニケーション能力。本学の職員だけでなく、親しい存在。大学職員としての基礎知識

3. 最後に次年度のアサーティブ入試の改善点及びグループディスカッションのテーマ案とそのテーマからどのような議論を期待するかについて

◆まとめ

大学の様々な部署の職員が、一人ひとりの高校生と真剣に話をしている姿が自然になってきた。毎年少しずつ増員をし、3年で約60名となった面談職員である。戸惑いながらも、高校生から発見した気付きがあり、その内容をケースカンファレンスという形で共有する。本研修で得たことを次年度の個別面談に活かされると、ようやくPDCAサイクルの形が整い始める。もう少し事例が集まれば、傾向分析にも取り組み、多様な高校生との面談指標の作成に取り組みたい。

新聞

○新聞

掲載日: 2016年5月11日
 新聞名: 日経MJ(流通新聞) 4頁
 タイトル: 「学習意欲の向上、大学と共同研究、ベネッセ。」

掲載日: 2016年6月20日
 新聞名: 日本経済新聞 朝刊 22頁
 タイトル: 「追手門学院、新キャンパス展開」

掲載日: 2016年6月22日
 新聞名: 読売新聞 朝刊 33頁
 タイトル: 「変わる入試 思考力問う」

掲載日: 2017年2月1日
 新聞名: 日本経済新聞 朝刊 29頁
 タイトル: 「何度も面談『育成型』」

日本経済新聞(2016年6月20日)

2016年5月11日 日経MJ(流通新聞)

学習意欲の向上、大学と共同研究、ベネッセ。

2016/05/11 日経MJ(流通新聞) 4ページ 369文字

ベネッセホールディングスは関東学院大学などと共同で学生の学習意欲向上に関する研究を始めた。ベネッセが実施する試験と学業成績、学生へのインタビューを通じて必要な教育カリキュラムの作成などに役立ててもらう。今後、提携する大学を拡大する考えだ。

関東学院大と追手門学院大とそれぞれ1~2年間、共同研究する。ベネッセ傘下のベネッセキャリア(東京・新宿)とベネッセ教育総合研究所が協力する。

関東学院大との研究では、昨年試験を受けた現在の2年生100人の試験結果を分析する。そのうち40人程度にインタビューする。学業成績や学生の意欲変化、どのような時に成長したと実感するかを探り、カリキュラム作成の参考にする。

追手門学院大とは同大が2014年度から始めたグループディスカッションや個別面接で選考する「アサーティブ入試」の成果を検証する。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報(以下「情報」)の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。
 本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。
 本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。
 Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.

日経MJ(流通新聞)(2016年5月11日)

ガイダンスから入学までの推移

項目	2014年度	2015年度	2016年度
ガイダンス参加者	700	750	800
入学希望者	600	650	700
合格者	500	550	600
入学者	450	500	550

アサーティブ以外の入試でも高合格率

入試方式	2014年度	2015年度	2016年度
アサーティブ	85%	88%	90%
一般入試	75%	78%	80%
推薦入試	80%	82%	85%
その他	70%	72%	75%

How to... 3 育てる入試

追手門学院大学

職員的面談が高校生の心をつける

志村知美

雑 誌

○雑誌

発行日: 2016年5月16日

雑誌名: 本当に強い大学2016 (東洋経済新報社)

タイトル: 「育成型入試で中間層を取り込め!」

発行日: 2016年6月23日

雑誌名: 価値ある大学2017年版 就職力ランキング (日経HR)

タイトル: 「入学志願者数が増えている大学」「大学入試Q&A」

発行日: 2016年6月24日

雑誌名: Between 6-7月号 (株式会社進研アド)

タイトル: 「育てる入試 職員の面談が高校生の心に火をつける」

発行日: 2016年6月

雑誌名: 大学教育と情報 2016年度NO.1 (公益社団法人 私立大学情報教育協会)

タイトル: 「アサーティブプログラム・アサーティブ入試と新たな高大接続の可能性 ~追手門学院大学~」

発行日: 2016年7月29日

雑誌名: BILANC 2016 Vol.10 (公益財団法人 私立大学退職金財団)

タイトル: 「急速に広がる「育成」型入試プログラムを実施」

発行日: 2016年9月

雑誌名: Campus Life Vol.48 (全国大学生生活協同組合連合会)

タイトル: 「主体的に学ぶ意欲を促す アサーティブプログラム・アサーティブ入試」

発行日: 2016年12月

雑誌名: AERA12月19日号 (朝日新聞出版)

タイトル: 「大学だって稼がなきゃ生き残れない 人口減少時代の大学経営とは」

発行日: 2016年12月25日

雑誌名: 持続可能な科学技術創造立国づくりの要

~エンジニアリング・リベラルアーツのすすめ~ (公益社団法人 日本工学会)



Campus Life Vol.48 (2016年9月)



BILANC 2016 Vol.10 (2016年7月29日)

講演依頼

「大学改革特別セミナー」

主催: NPC大学問題研究所
日時: 2016年4月7日(木)
会場: 旧桜宮公会堂
講演者: 福島一政
演題: 追手門学院大学アサーティブプログラムの推進課題と将来展望
～「選抜型」から「育成型」への挑戦～

「名桜大学SD研修会」

主催: 名桜大学
日時: 2016年5月31日(火)
会場: 名桜大学
講演者: 福島一政
演題: 大学改革と高大接続について

「個別大学の入試改革・最前線と進化策II」

主催: 地域科学研究会・高等教育情報センター
日時: 2016年6月15日(水)
会場: 日本教育会館
講演者: 福島一政
演題: アサーティブプログラムとアサーティブ入試の実践
～選抜型から育成型への転換と新たな高大接続～

「第19回大会公開シンポジウム」

主催: 日本高等教育学会
日時: 2016年6月26日(日)
会場: 追手門学院大学
講演者: 福島一政
演題: アサーティブプログラムとアサーティブ入試
～選抜型から育成型入試への転換～

第35回「学生の意識と行動に関する研究会」

主催: 全国大学生協連
日時: 2016年7月12日(火)
会場: フォーレスト本郷
講演者: 志村知美
演題: アサーティブプログラム・アサーティブ入試 ～大学職員の役割～

「大学経営セミナー」

主催: 早稲田大学
日時: 2016年7月13日(水)
会場: 早稲田大学
講演者: 福島一政
演題: 選抜型から育成型への大学入試改革
～アサーティブプログラムとアサーティブ入試～

「IDE大学セミナー」

主催: IDE大学協会
日時: 2016年8月18日(木)
会場: 九州大学・西新プラザ
講演者: 福島一政
演題: アサーティブプログラムとアサーティブ入試
～選抜型入試から育成型入試への転換～

「愛知みずほ大学FSD研修会」

主催: 愛知みずほ大学
日時: 2016年8月24日(水)
会場: 愛知みずほ大学
講演者: 福島一政
演題: 追手門学院大学における教育改革の取組と
アサーティブプログラム・アサーティブ入試の成果について

「平成28年度教学担当理事者会議」

主催: 一般社団法人 日本私立大学連盟
日時: 2016年8月30日(火)
会場: ANAクラウンプラザホテル神戸 9階「ローズマリー」
講演者: 志村知美
演題: 追手門学院大学 アサーティブプログラム・アサーティブ入試

「岡崎女子大学・岡崎女子短期大学SD研修会」

主催: 岡崎女子大学・岡崎女子短期大学
日時: 2016年9月15日(木)
会場: 岡崎女子大学・岡崎女子短期大学
講演者: 福島一政
演題: アサーティブプログラム・アサーティブ入試の取組と取組に伴う効果
(大学改革・大学入試)

「平成28年度 第3回進路指導専門部会」

主催: 京都府公立高等学校長会 進路指導専門部会
日時: 2016年11月29日(火)
会場: 京都府総合教育センター
講演者: 志村知美
演題: 選抜型から育成型への大学入試改革
～アサーティブプログラム・アサーティブ入試～

「松山大学FD研修会」

主催: 松山大学
日時: 2016年12月1日(木)
会場: 松山大学 文京キャンパス
講演者: 志村知美
演題: 選抜型から育成型への大学入試改革 ～「答え」は目の前の学生から～

「教育マネジメント研究会」

主催: 大学行政管理学会 教育マネジメント研究会
日時: 2017年1月7日(土)
会場: 追手門学院 梅田サテライト
講演者: 志村知美
演題: 選抜型から育成型への大学入試改革
～アサーティブプログラム・アサーティブ入試～

「淑徳大学第2回大学間連携FD研修会」

主催: 淑徳大学
日時: 2017年2月21日(火)
会場: 淑徳大学 埼玉キャンパス
講演者: 福島一政
演題: 選抜型から育成型への入試改革と高大連携
～アサーティブプログラムとアサーティブ入試の取組を中心に～

入学者インタビュー調査

アサーティブ入試 入学者の追跡調査（中間報告）

1. 調査対象者 アサーティブ入試 入学者190名

2. 時期 5月下旬～6月末日現在

3. 内容 面談時間は、一人15分程度。
質問内容は、以下内容を中心に行う。

- ・アサーティブプログラム・アサーティブ入試全体についての意見・感想
(個別面談/MANABOSS/1次試験・2次試験/入学前学習など)
- ・大学入学後の過ごし方
(出欠状況/履修状況/クラブ・サークルなどの参加/学内プログラムの参加など)
- ・大学入学後の気持ちの変化について

4. 目的 アサーティブプログラムで期待している

1. シラバスの活用
2. 講義への参加意欲の向上
3. 各種活動への積極的参加

ができる大学生になっているかを検証すること。

インタビュー結果 ※学生主観による回答

◆インタビュー実施状況

(単位:名)

	アサーティブ入試入学者	
インタビュー実施者	86 / 190	45.3%

◆インタビュー内容

(単位:名)

	アサーティブ入試入学者		学生コメント
シラバスの活用	66 / 86	76.7%	・自分の希望する内容と合っているかの確認に使った ・高校生の頃にWEEKDAY CAMPUS VISITに参加してシラバスの使い方を知った ・シラバスを見ても、実際に授業を受けてみないと分からない部分もあった
授業への出席	76 / 86	88.4%	・授業が面白く、1日も休まずに出席している ・入学時から無遅刻無欠席を目指している ・曜日によって授業の開始時間が異なるので、時間管理を心がけるようになった
予習・復習の有無	51 / 86	59.3%	・授業の空き時間を活用している ・授業を録音し、改めて聞くことで復習している ・授業内容が段々難しくなってきたので予習・復習を心掛けている
各種活動への参加 (アルバイト・部活・サークル・学内スタッフ等)	79 / 86	91.9%	・オープンキャンパススタッフやアサーティブスタッフに参加した ・部活動に参加し交友関係が広がった ・授業の空き時間を活用しサークル活動をしている
アサーティブノートの活用	23 / 86	26.7%	・個別面談で聞いた事や話した事を記録した ・MANABOSSの達成度を表にして記録した ・使い方がよく分からなかった
アサーティブプログラムを受けてよかったこと (学生コメント)	・個別面談で、自分に適した学部を見つけることができた ・オープンキャンパスで、アサーティブスタッフ(先輩)からのアドバイスがとても役に立った ・MANABOSSのおかげで空いている時間に学習をする習慣がついた ・入試のグループディスカッションでは、議論を交わすことの大切さを知ることができた ・シラバスの使い方が分かっていたので、スムーズに授業を受けることができた		

入学者インタビュー調査

人として必要なコミュニケーション能力も身につくと感じました。

私は、追手門学院大学のオープンキャンパスに参加した際に、「アサーティブプログラム・アサーティブ入試」を知りました。このプログラムでは、勉強面だけではなく、人として必要なコミュニケーション能力も身につくと感じました。そこで個別面談には何度も参加し、色々な職員の方とお話しました。回数を重ねるたび、大学で何がしたいかなどの目標が定まっていたので、より一層この大学に進学したい気持ちが強まりました。

その気持ちをモチベーションにしてアサーティブ入試に挑みましたが、残念ながらA日程では不合格でした。悔しい気持ちもありましたがB日程でもう一度チャレンジすることを決めて、「MANABOSS」を利用し、さらに勉強に励みました。グループディスカッションでは、個別面談で身につけた『人の話を聞きながら自分の意見を伝える力』を発揮することができました。その結果B日程で合格することができました。

大学生活ではサークルに入るなど自分から積極的にコミュニケーションを図ることができ、友達が増えました。今思えば、このプログラムで得た力のおかげかもしれません。これからも、たくさんの人と関わっていきたいです。



経済学部 経済学科 1年
津留 康平
(大阪府立芥川高等学校 出身)

アサーティブノートに自分の気持ちを書き出していました。

私は高校生の時、大学で学びたいことはだいたい決まっていたのですが、どうやって大学を決めたいのかかわからず悩んでいました。そんな時に追手門学院大学の「アサーティブプログラム」を知り参加しました。個別面談で職員の方に、「できるだけ多くの大学へ行ってみてください。」と言われ、その通りに多くの大学へ足を運びました。その度、気付いたことを「アサーティブノート」にたくさん書きました。ノートに書いて後で見返すことにより、大学選びだけでなく、入学後の学生生活についても真剣に考えられるようになりました。またノートに自分の気持ちを書き出すことで、より深く自分のことを知ることもできました。

アサーティブ入試を受けると決めてからは、入試対策で「MANABOSS」を利用しました。パカロレアバトルでは、自分の意見を簡潔にまとめて発表することを意識しながら練習したので、本番での自信に繋がったと思います。2次試験の面接では「アサーティブノート」に書いていた大学で挑戦したいことや目標をしっかりと伝えることができました。今は、面接の時に話した「挑戦したいこと」を1つ1つ達成していくことが目標です。



経営学部 マーケティング学科 1年
清水 優希奈
(大阪府立緑風冠高等学校 出身)

アサーティブ入試のおかげで、大学へ進学する勇気が持てました。

私は高校3年生になっても大学に進学する勇気がなく、将来やりたいこともあまり定まっていませんでした。しかし、追手門学院大学の「アサーティブプログラム・アサーティブ入試」を知り、参加してみようと思いました。個別面談では、自分が将来やりたいこと、大学でやってみたいこと、何に興味があるかなどを話しました。その時面談職員の方に「自分と向き合って、やってみたいことが少しでもあるなら、大丈夫!後は自信を持つだけだよ!」とあっていただき、大学進学を決めることができました。

1次試験のグループディスカッションは珍しい入試方法なので不安でしたが、学校で先生や友達とお題を決めて、何回も練習しました。練習していくうちに自分の考えを人に伝えることや、他の人の意見を聞くことがすごく楽しくなりました。基礎学力適性検査の対策として「MANABOSS」に何回も取り組み、達成度を確認することで自分の学力に自信を持てるようになりました。

私は今まで自分に自信がなく、人と関わることが苦手でしたが、「アサーティブプログラム・アサーティブ入試」を通して、前向きに人と関わることができるようになりました。大学生になってからは、アサーティブ課の職員の方やアサーティブスタッフの先輩方にお世話になりながら、楽しい大学生活を送っています。



地域創造学部 地域創造学科 1年
田中 智子
(兵庫県・百合学院高等学校 出身)

アサーティブ入試で感じた自分の新たな可能性。

高校3年生の時、進路を決めないといけない時期になり、どこの大学がいいのか、どの入試方式にするべきかと悩んでいました。そんな時担任の先生に勧められたのが追手門学院大学の「アサーティブ入試」でした。聞きなれない入試だったので、オープンキャンパスでアサーティブガイダンスと個別面談を受けるところから始めました。面談してくれた職員の方は色々なアドバイスを下さり、「君はこの入試に向いているよ。」と大きく背中を押してくれました。入試前には「MANABOSS」を使い、ひたすら勉強をしました。他の大学の入試対策問題とは違い、基礎学力を見直すものだったので意欲的に取り組むことができました。入試の中で一番印象に残っているのはグループディスカッションです。もともと一つのテーマをみんなでディスカッションすることが好きだったので、すごく楽しんでやれました。面接も和やかな雰囲気でお話することが出来て、他の入試にはない色んなことが経験できる入試方式だと感じました。アサーティブ入試のおかげで入学前に友達ができ、不安や悩みを共有し、一人ではないと感じることができたのは大きかったです。また、大学で学ぶことへの期待が大きくなり、色んなことに挑戦したい気持ちが湧いてきて、今まで気づかなかった自分の新たな可能性を感じました。

これからはアサーティブスタッフとして悩んでいる高校生と一人でも多く話をして笑ったり、時に一緒に悩んだりできるそんな活動をしたいと思っています。



社会学部 社会学科 1年
北村 優生
(大阪府・金光大阪高等学校 出身)

大きな視野を養いそしてそれを実践できる入試。

高校3年生の時、進路選択や入試方式で悩んでいたところ「アサーティブプログラム・アサーティブ入試」のことを先生から教えてもらいました。

最初は「アサーティブプログラム」がどういうものかわからず不安でしたが、個別面談や先輩との関わりを通し、自分自身と向き合い、目的を持ち、多角的な視野を養えるプログラムだと理解しました。そして、「アサーティブ入試」に挑戦しようと決意しました。入試内容として、グループディスカッション、基礎学力適性検査、面接がありますが、これは全てプログラムを通して身につけた能力を活かすことができます。そしてアサーティブ入試そのものを通じ『成長』することができる画期的な入試方式だと思いました。

私は今、追手門学院大学でしかできない様々なことに挑戦し、日々を過ごしています。こうして意欲的に行動できているのは「アサーティブプログラム・アサーティブ入試」で自分自身と向き合い、大学で『何』をするのか明確にできたからです。今は不透明であっても、このプログラムや入試を通して何か見つかるかもしれません。進路に悩んでいる高校生にぜひ挑戦してもらいたいです。



心理学部 心理学科 1年
金城 匠
(大阪府・精華高等学校 出身)

「アサーティブな態度」は国際社会でも必要だと思いました。

私は幼い頃から海外に興味があり、留学をしたいという夢がありました。しかし、高校3年生になっても、留学について具体的にどうすれば良いのか分からず、進路にも悩んでいました。そんな時に、友人から「アサーティブプログラム」を教えてもらい参加しました。「相手の意見を尊重しながら率直に対等に自分の意見を表現することが大切」という話を聞いている内に、「アサーティブな態度」は国際社会でも必要な事だと思いました。面談では、職員の方にアドバイスをもらいながら、自分の将来や、大学での学びについて具体的に考える事ができました。そこで私は、アサーティブプログラムを通して追手門学院大学の国際教養学部に入りたいと考え、アサーティブ入試を受ける事を決意しました。

入試では、1次試験のグループディスカッションがすごく印象的で、グループの人達と色々な意見を交換し合うのは楽しかったです。そして、一緒にグループになった人と友達になり、今では共にアサーティブスタッフをしています。普通の入試とは違い、アサーティブ入試だからこそできた友達だと思います。

これからの学生生活は、留学や資格取得に向けて努力し、価値のある4年間にしたいです。また、アサーティブスタッフなどの活動に積極的に参加し、たくさんの人と関わる中で価値観を広げていきたいです。



国際教養学部 国際日本学科 1年
山田 麻織
(兵庫県立有馬高等学校 出身)

アサーティブシンポジウム開催報告

アサーティブシンポジウム

大学学力入試の限界と新たな高大接続の方向性 ～追手門学院大学の挑戦～

1 開催目的

文部科学省の平成 26 年度大学教育再生加速プログラムテーマⅢ(入試改革) にアサーティブプログラムとアサーティブ入試が採択され、平成 28 年度に 3 年目を迎えた。この取り組みの中間報告と学力偏重の選抜から多様性・主体性を重視した選抜への転換をどのように図っていくのか、新たな高大接続のあり方をどのように具体化するのか、ひいては教育改革をどう進めていくべきなのかを考える機会としてシンポジウムを開催した。

このシンポジウムは、本学創立 50 周年記念事業の一環としても位置づけて取り組んだ。

2 開催日時・場所 2016年7月25日(月) 13:00~18:00 ヒルトン大阪 5F 桜の間

3 内容

開会挨拶 学長 坂井東洋男

第1部 基調講演「高大接続システム改革最終報告の先にあるもの」

日本学術振興会 理事長・慶應義塾学事顧問 安西祐一郎氏

第2部 アサーティブプログラム・アサーティブ入試の報告 副学長 福島一政

第3部 パネルディスカッション「大学学力入試の限界と新たな高大接続の可能性」

パネリスト ・独立行政法人大学入試センター 副所長 大塚雄作氏

・滋賀大学 教育学部特任教授 河原恵氏

・読売新聞東京本社専門委員 松本美奈氏

・NPO法人NEWVERY 理事・高大接続事業部ディレクター 倉部史記氏

・追手門学院大学アサーティブオフィサー アサーティブ課長 志村知美

指定討論者 ・高知県公立大学法人 法人本部総務部長 福田直史氏

・NPO法人NEWVERY 理事長 山本繁氏

コーディネーター ・基盤教育機構教授(学長補佐) 池田輝政

第4部 情報交換会

4 来場者数

シンポジウム(第1部~第3部)…305名(内訳…高校教員87名、大学関係者93名、学院関係者81名、その他44名)

情報交換会(第4部)…156名

5 概要

基調講演では、高大接続改革を進めることになった背景として、現在の日本が抱える就業構造の問題点や、産業構造、雇用市場を鑑み、学力の3要素が身につく教育をするにはどうすればよいか、という観点が発端であり、学習指導要領の改訂や、アクティブラーニングの推進、そして高等学校基礎学力テスト(仮称)、大学入学希望者学力評価テスト(仮称)についてなど、教育関係者にとって旬な話題が語られ、大変興味深い内容であった。個別大学の入学者選抜改革の事例も紹介され、これからの個別大学の入試については、自らの考えを記述(論述)させるテストやその評価方法、面接試験だけでなくディスカッション試験、プレゼンテーション試験等の導入の見直しや検討もされているとのことであった。本学のアサーティブ入試についても高い評価をして頂いた。特に記述式の入試については、書く力を評価することで、学力の3要素(①基礎的・基本的な知識・技能の習得、②これらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力など、③主体的に学習に取り組む態度)の全てを評価できるとのことである。これまでの社会を支えてきた教育をどのように転換し、主体性・多様性・協同性を身につける学びの場を展開するかが今後の課題である。

パネルディスカッションでは、国が示す高大接続や入試改革の方向性も加味した上で、それぞれの立場から、今の大学入試の問題点や課題、新たな高大接続の形について、鋭い指摘や活発な議論、意見交換が行われた。特に「高大接続は何を接続するのか」という問いに対し、「高校から大学へ生徒の学ぶ意欲を繋げる」などの意見が出された。また、「高大“接続”と高大“連携”はどう違うのか、どう使い分けるのか」と、現場で混乱している問題も提議された。

日本の大学の退学率の高さについても、大学選択の「ミスマッチ」がもたらす影響も大きく、この問題については、高校の進路指導・進路づくりだけでは限界であり、受け入れる側の大学も積極的に関わること、すなわち高校と大学が“連携”して“接続”していくことの重要性が指摘された。



第4部の情報交換会では、参加者とパネリストおよび本学関係者との間で情報交換が行われた。会の途中では、アサーティブ入試で入学したアサーティブスタッフ4名の紹介が行われた。アサーティブスタッフにたくさんの参加者が質問をし、自分たちの言葉でアサーティブプログラム・アサーティブ入試について語ってくれた。また、彼ら自身にとってもアサーティブの取り組みが、多くの人たちから注目をされていることを実感した場となった。



アサーティブスタッフが来場者の皆さまにご挨拶



たくさんの方々と歓談



アサーティブ「A」ポーズ

6 総括

入試改革・高大接続については大学が直面している大きなテーマであり、全国から多くの高等学校教員・大学関係者が参加し、高大接続についての共通認識や課題を共有できた機会であった。それぞれが抱えている課題にほんの少しでも、アサーティブの取り組みが参考になれば幸いである。アサーティブの取り組みの更なる拡がりや発展に向け、引き続きアサーティブプログラム、アサーティブ入試を育てていくことが本学の大きな使命であると改めて確認された。

アサーティブイベント「はじめての大学」開催報告

1 開催目的

本学希望者に限らず大学進学を考えている高校生・保護者を対象に、大学での学び、大学の選び方、大学受験の実情について、わかり易く伝わり易い入門編のイベントとする。

2 開催日時・場所

2016年5月22日(日) 13:00~16:00 追手門学院大学

3 イベント実施内容

- ・高校生向け講演会 (NPO法人NEWVERY / アサーティブ研究センター客員研究員 倉部史記氏)
- ・保護者向け講演会 (ベネッセ教育総合研究所副所長 木村治生氏 / 滋賀大学教育学部特任教授・前滋賀県教育委員会教育長・元滋賀県立膳所高等学校校長 河原恵氏)
- ・アサーティブガイダンス・個別面談
- ・グループディスカッション体験
- ・先輩学生との座談会
- ・MANABOSS体験
- ・個別相談コーナー

4 来場者数

- ・総来場者数…116名
- ・講演会 高校生向け…42名 / 保護者向け…74名
- ・アサーティブガイダンス 高校生…35名 / 保護者…43名
- ・個別面談…30名(うちリピーター7名)

5 来場者アンケート結果

高校生

(自由記述 抜粋)

- ・自分のしたいことが見えてきた。
- ・これからの人生を決めていくのは自分の意志なのでしっかり選びたいと思いました。
- ・また相談ごとができたら来たいと思います。
- ・色々と知れたことがあったので、良かったです。次はオープンキャンパスに行きたいと思います。
- ・とても勉強になりました。今後の自分が見えたような気がします。ありがとうございました。
- ・個別面談で色々な事を聞けて本当に良かったです。

保護者

(自由記述 抜粋)

- ・親子3人で参加させて頂きました。貴重な体験をさせて頂き感謝しております、今後「ヘリコプター・ペアレンツ」にならないよう、娘の意志を尊重し、心をかけて進んで行きたいと思いました。アサーションという概念は今回初めて知りました。学生だけでなく社会人になっても活かしていける思考だと思えます。家でも、勉強に意欲を持てる関わりを心掛けたいと思います。丁寧なご説明、ありがとうございます。
- ・今の大学のあるべき姿と、保護者の考え方、入試に対する考え方を教わったと思う。具体的にもっと知りたいと思う。高校生(子供)と一緒に考えて行きたい。
- ・親として、言ってはいけない事を再確認できました。

6 総括

初めての受験生を持つ保護者に向け、子どもたちに自分で決めさせるよう見守ってほしいと伝えるイベントであった。オープンキャンパスの感覚で参加した保護者からは残念な意見もあったが、概ね好評であった。次年度に向け、開催趣旨をしっかりと伝えることと施設見学なども取り入れた内容を検討しなければならない。

講演については、高校が PTA 総会などで実施している進路講演とは違った角度での内容が非常に好評であった。アサーティブガイダンスは保護者にも参加を促しているため、保護者も巻き込んだ「育成型」を構築できるプログラムを検討していきたい。

アサーティブスタッフの活動報告

アサーティブスタッフとは

2016年度よりアサーティブプログラムを経て入学した学生が、高校生のために何かできないかと考え「アサーティブスタッフ」という組織を作った。主な活動内容は、学内での「アサーティブガイダンス・個別面談」開催時の、受付・誘導業務、高校生対応である。中には、自らアサーティブガイダンスを行いたいと手を挙げた学生もあり、大勢の高校生の前で実体験を踏まえた話をしている。また、「先輩学生と話そう!」というコーナーを設け、「アサーティブプログラム・アサーティブ入試」を経験した先輩学生と高校生が直接会話できる場所を作った。この座談会が非常に好評であり、毎回多数の高校生の来場がある。さらに、先輩学生がファシリテーターを務め、「グループディスカッション体験」ができるようにした。

アサーティブスタッフである彼らと接していると、勉強以外のこともたくさん学びたい、社会に出た時に役立つ力を身につけたいという意欲が伝わってくる。高校生の面談時からずっと見守っているため、成長を直に感じることができる。これも「アサーティブプログラム・アサーティブ入試」の取り組みにおける大きな成果である。

アサーティブガイダンス



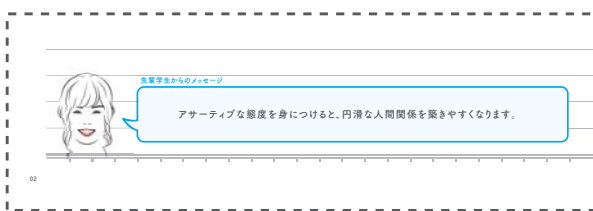
座談会とグループディスカッション
体験コーナーを新設



学生自身がスライドを作成しアサーティブガイダンスを実施



アサーティブノート制作



「先輩学生からのメッセージ」欄を作りたいと提案
学生自らメッセージを収集し、
担当者さんとの打ち合わせにも参加

アサーティブアプリ制作



アサーティブアプリのコンテンツ制作に参加
ムービー内にある「アサーティブガイダンス」
ナレーション収録を実施



アサーティブスタッフの活動報告

沖縄研修 平成29年3月1日(水)~3日(金)

3/1 (水) 名桜大学ウェルナビメンバーと意見交換

3/2 (木) 名桜大学ウェルナビの研修見学・参加 研修の反省会へ参加

3/3 (金) 沖縄科学技術大学院大学の施設見学 首里城にてパンフレット用の写真撮影



アサーティブ1期生5名が、沖縄にある名桜大学の学生団体「ウェルナビ」と交流



ウェルナビの研修会にも参加



アサーティブスタッフの絆が深まった3日間

アサーティブスタッフの10年後を見据えて、土台作りをしていかなければいけない。

概要

1日目の活動では、事前に用意した質問項目を基に、4年次のウェルナビ生7人とアサーティブスタッフ5人の対話形式で質問を行った。質問に対する返答を聞くと、私たちの活動とは異なっている部分が多かったが、共通している部分もありとても勉強になった。共通している部分は、「この大学に来て良かったと思ってもらいたい」という気持ちを持って接していることである。実際にウェルナビ生7人とも名桜大学に来て良かったと発言していた。その中には、名桜大学が第1志望ではなかった人もいた。私たちは高校生を中心に、「アサーティブプログラムを受けて良かった」と感じてもらえるように活動を行っている。そして今回の研修を通して、アサーティブ入試を受けて追手門に入った人に、「追手門に来て良かった」と感じてもらえるような活動もしていきたいと思った。そうすることによって、より多くの人を活動に巻き込んでいくことが期待できる。

ウェルナビ生にウェルナビに入ったきっかけを聞くと、全員が「先輩のウェルナビ生に助けてもらって、自分もこのような活動をしたいと感じたから」と答えた。ウェルナビがボランティアで成り立っているのは、この入ったきっかけによるものではないかと感じた。私たちの活動は、アルバイトとした方が良いのか、それともボランティアとした方が良いのかは分からない。しかし、今年入ってくる新1回生や今の高校生たちに、このように感じてもらえる活動をすれば、ボランティアで協力してくれる学生が増えるのではないかと感じた。そのためにも、オープンキャンパスでのアサーティブスタッフの活動をより良くしていかなければならない。

2日目の活動では、ウェルナビの「第10回新入生支援ボランティア養成研修」の見学を行った。アイスブレイキングなどの参加できることには参加した。この研修では、アイスブレイキングのやり方や、プレゼンの方法、報告書やメールの書き方、研修の進め方など技術的な面で学ぶものも多かった。また、「ウェルナビとは何か」について考える時間では、自分たちが「アサーティブスタッフとは何か」について考えるきっかけにもなった。そして、2日目の研修会を通して最も衝撃を受けたことは、担当の先生は見守るだけであり、学生だけで研修会が進んでいたことである。学生によって活動を動かしているというのは事前に聞いていたが、これほどまでとは思っていなかった。自分たちは、何か活動をするとなったらアサーティブ課の職員の方に提案してもらって、それに対して活動をしている。しかしウェルナビの活動は学生が提案し、先生が最後に確認する程度である。ウェルナビの活動を見学して、私たちは主体性が低いと感じた。今後は主体性を持って自分たちから行動していきたいと感じた。そうでなければ、学生による学生のための支援にはならないであろう。

その後の反省会では、現役のウェルナビ生と近い距離で話をした。ウェルナビのことや、ウェルナビに関係のないことまで話をし、とても充実した時間になった。一人ひとりが自分の意見を持っていて、さらにそれを言葉で表現できる能力もあり、自分もこうならなければならないと感じた。

2日間ウェルナビ生との交流を行い感じたことは、とてもみんな仲が良いこと、メリハリがきちんとついていることである。みんな仲が良いが、活動の時には意見の衝突が多いと言っていた。そんな後でも、楽しむところはしっかり楽しんでいてとても素敵な学生団体である。

私たちはアサーティブの1期生でスタッフの活動もまだ始まったばかりだが、10年後にはウェルナビのように学外から見学に来るような素晴らしい学生団体になって欲しいと感じた。そのためにも、10年後に向けた土台作りを自分たちでしていかなければならない。

提案

今回の沖縄研修で学んだことを活かすために、アサーティブ入試で入学してくる新1回生へ向けたイベント、オープンキャンパスでのアサーティブコーナーの充実を提案する。

これまでは、アサーティブプログラムを受けている高校生に対してのみ活動を行っていたが、今回の研修を通して、アサーティブプログラムを受けて入学してきた学生にも支援を行うことができるのではないかと感じた。その第1歩として、今年アサーティブプログラムを受けて入学してくる新1回生に対して、友達作りを主な目的としたイベントを行いたいと考えている。大学生活において友達はとても重要である。また、先日梅田サテライトで行ったアサーティブガイダンスでも「入学後にもアサーティブの繋がりがあってあるのですか?」という質問があった。このイベントを行うことによって、人との繋がりが生まれ、「この大学に来てよかった」と思ってくれる人が増えることが期待される。また、イベントを行うことによって、アサーティブスタッフの活動に協力してくれる人が現れることも期待できる。

現在オープンキャンパスのアサーティブのコーナーでは、アサーティブガイダンス、個別面談、座談会、グループディスカッション体験のコーナーがある。これらのコーナーでは、高校生と職員の関係、または高校生と大学生の関係が主である。今回私が提案したいのは、高校生と高校生の間に関係が生まれるようなイベントを作ることである。私が今回の沖縄研修で一番刺激を受けたのは、自分と同学年くらいのウェルナビの学生さんである。また、自分と同学年くらいの学生と繋がりができて良かったと思ひ、とても重要な繋がりと感じた。そのため、アサーティブプログラムを受けている高校生同士の繋がれるようなコーナーを作りたいと感じた。具体的なコーナーはまだ思いついていないが、例えば、ガイダンスの中でグループワークを入れてみるなどを考えている。このようなコーナーを作ることにより、アサーティブプログラムがより良いものになっていくのではないかと感じた。

また、現在アサーティブスタッフには集まる部室がない。ウェルナビ生によると、部室があるとメンバー同士で集まる時間が多くなり、より良い活動に繋がったり、新入生の窓口になったりするとのことであった。そのため、アサーティブスタッフに部室を作ることも提案したい。



心理学部 心理学科 3年
瀬々 健咲
(広島県・山陽高等学校 出身)

平成29年度 大学教育再生加速プログラム 事業計画

本補助事業の目的

事業全体の目的は、本学の基盤教育機構が進める「主体的に取り組む姿勢とチームとして行動する能力、個性と協働力の育成を図る」ための少人数教育に直接連動し、改革の成果を確実に加速させることである。本学の建学の理念であり教育「独立自彊・社会有為」に基づいた教育を実現するためには、主体的に学ぶ姿勢を育てる機能を有した新たなプログラムと入試制度を実現する必要がある。

新しい入試のコンセプトは、「選抜型入試」から「育成型入試」である。

大学進学率が過半数を超え、多様な受験生が増加していることを踏まえ、大学で学ぶ姿勢や意欲を育てるために、発達支援の考え方を取り入れた、大学教育への接続のための新しいプログラム開発である。この趣旨は、大学受験を希望する高校生に、大学で学ぶことへの期待を持たせ、主体的に学ぶ姿勢に変容させて、大学や学部などを決める際の選択肢を自分で選んで決断することの大切さに気づかせて受験に導くことである。本学の教育目的である「独立自彊・社会有為」の人材育成機能の強化を図ることが、本補助事業の目的である。



大学教育再生加速プログラム

平成 29 年度補助事業の目的

MANABOSSシステムの更なる改善と機能開発を継続し、高校単位で広く利用してもらえるようにする。そのためにも、問題数を増やすことと協力大学の開拓をすることである。また、4年目を迎えるため、これまでの取り組みを振り返り、新しい高大接続を視野に入れたアサーティブプログラム・アサーティブ入試制度の向上を図ることである。

平成 29 年度補助事業実施計画

計画 広報媒体を作成し、現行地域に加え沖縄・離島エリアへの拡大広報を行う。併せて高校訪問を実施する。

内容 重点地区を沖縄・離島エリアとし、プログラムの普及に繋がる募集活動を行う。また、広報媒体を活用し告知活動を行う。

成果 アサーティブプログラム・アサーティブ入試の知名度向上とともに、関西エリア以外の入学者を増やすことにより多様な経験のきっかけを提供することができる。

計画 アサーティブプログラム・アサーティブ入試普及のための連携大学を開拓する。

内容 入試改革に取り組む他大学との意見交換や訪問調査などを行い、本補助事業の普及を行う。

成果 連携大学間でアサーティブガイダンスを行うことにより、お互いに幅広い地域からの受験生を確保することができる。

計画 アサーティブガイダンス及び個別面談を開始する。アサーティブイベントを開催する。

内容 新学年の高校生に向けたガイダンスを開催する。また、アサーティブイベントを実施することで早期に大学進学への動機付けを図る。

成果 個別面談者数1,000人を目標とし、その確保ができるようにする。
アサーティブイベントでは、300人の参加を見込み、本学への出願につなげていくことができる。

計画 平成29年度入学の新入生について、入学後の学生生活等についてヒヤリング調査を行う。

内容 入学前と入学後の状況をヒヤリングすることで、入学後のフォロー体制を含めスムーズな接続体制を検討する。

成果 入学後の実態を把握することにより、入学前の支援の在り方を検討することができる。

計画 入試募集要項及び入学手続要項を作成する。

内容 入試募集要項は、アサーティブプログラム受講者に配布する。入学手続要項は、アサーティブ入試合格者に配布する。

成果 アサーティブプログラムの受講者を本学への出願へ繋げ、入学者目標数を確保できるようにする。

計画 併設校・提携校及び滋賀県教育委員会指定校に対してアサーティブプログラムへの誘導を行う。

内容 アサーティブプログラムを通じて、進路選択のきっかけを作る。

成果 目的意識の高い受験生を安定的に確保することができる。

計画 MANABOSSシステムについて学習進捗管理機能のバージョンアップとコンテンツ開発を行う。また、CBTに関する調査を開始する。

内容 MANABOSSシステムの構築とコンテンツ開発を行うことにより、より多くの高校生が利用できるようにする。また、学習成果を把握し反映できるような機能を充実させ、広く高校にも利用を促す。

成果 入学前の学力担保を目指すとともに学習習慣を身につけた学生を確保することができる。

計画 アサーティブ入試実施と出願状況等のデータ分析を行い来年度の方針を策定する。

内容 出願状況や実施日などの分析を行い、アサーティブ入試の改善・修正を検討する。

成果 受験生の動向分析の結果から課題事項を検討し、ガイダンスの内容や面談の運営を見直すことにより、より多くの高校生に受験の意識を変容させることができる。

計画 入学前学習を実施する。

内容 アサーティブ入試合格者に対し、大学入学までの高校生活の充実と、大学での学びについて考え続けることができるよう課題を用意して、モチベーションの維持に努める。

成果 合格後の過ごし方によって、入学予定者は大学への期待感を醸成し、大学生となる心の準備をすることにより、学生生活の向上に結び付けることができる。

計画 実施担当から年次報告を行い、外部評価委員会による評価を受ける。

内容 平成28年度の外部評価委員に引き続き、アサーティブプログラムとアサーティブ入試についての評価を得る。また、次年度の事業実施に向けて、ガイダンスや入試日程の見直しを含め検討をする。

成果 外部評価委員会で、アサーティブプログラムとアサーティブ入試について評価を得ることにより、より高校生に適切なプログラムを提供でき、高大接続を見直し、改善を図り、高校生により良い進路を考える機会の提供が可能となる。

計画 アサーティブガイダンス面談職員研修会を実施する。

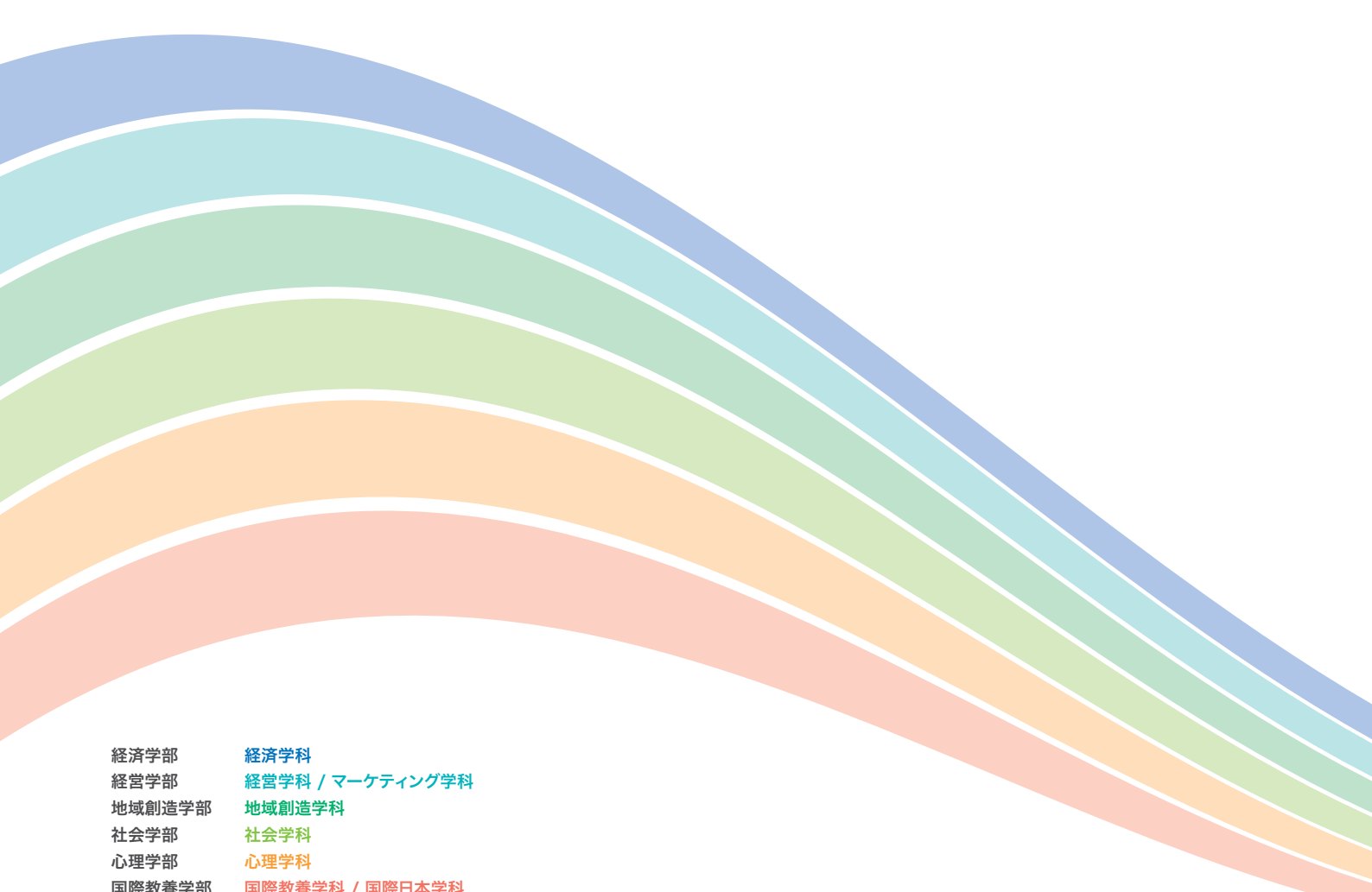
内容 アサーティブプログラム個別面談職員の研修を行う。

成果 面談職員が高校生・学生の実態を的確に把握し、教育改革への具体的な政策提起ができる力量と、ケースカンファレンスにより事例を蓄積することで個々の学生に対する教育支援ができる力を育成することができる。

計画 全入試終了後に、アサーティブプログラムを受けた受験生の出願傾向を分析する。

内容 アサーティブプログラムを受けた生徒の本学受験の状況や傾向を分析することにより、他入試との関連性を踏まえ、アサーティブガイダンスとアサーティブ入試の日程及び回数を検討する。

成果 アサーティブプログラム受講者の動向を分析することにより、他入試との関係を見直すことができる。



経済学部	経済学科
経営学部	経営学科 / マーケティング学科
地域創造学部	地域創造学科
社会学部	社会学科
心理学部	心理学科
国際教養学部	国際教養学科 / 国際日本学科

2017年6月発行

アサーティブプログラム・アサーティブ入試 補助事業報告書に関するお問い合わせ

追手門学院大学 アサーティブ課

TEL : 072-641-9623

- 住所 〒567-8502 大阪府茨木市西安威2-1-15
- 受付時間 平日(月～金)9:00～18:00
- e-mailアドレス assertive@otemon.ac.jp
- ホームページ <http://www.otemon.ac.jp>